

## 英語教育における英字新聞導入に関する研究

——学習者の意識及び影響を中心にして——

広島県立賀茂北高等学校 上西 幸治

### 1、はじめに

全国の学校において、新聞を導入した実践が行われていることは、新聞記事や各地区の研究発表会などで見受けられることである。Newspaper in Education (NIE)の実践は小学校、中学校、高校とその年齢を問わず行われている。しかも、公民・家庭・国語等様々な教科で、その試みが行われていることはいうまでもない。

今回、ここで紹介する実践は、NIEの活動の中でもその焦点が外国語（英語）教育ということで、多少趣を異にするところがあるように思われる。しかし、教育の中で日本語新聞を利用することと同様、英字新聞を英語教育の中で活用することは、学習者にとって重要かつ有効と考えられる。その一方で、「英字新聞は高校の生徒には難しいから導入はできない」という声を聞くことがある。英字新聞は学習者への意識調査（後述）でも、とにかく「英字新聞は難しい」という声は免れない。確かに、学習者の学力を鑑みての導入でなければ、逆効果になるとも限らない。つまり、英字新聞を導入したことによって、ますます英語学習への意欲の喪失等を招いたのではその導入の意義が薄れる。その点を十分に考慮しながら、学習者が「英字新聞でも結構おもしろい」という声が聞かれるように、授業への英字新聞導入を試みた。その結果、学習者の英字新聞（学習）に対する意識や英字新聞の学習者への影響がどうであるのか、提示した題材についての考察を含めて、調査・研究を行った。

### 2、NIE活動と英語教育

本来、NIE運動は1930年代にアメリカ合衆国で始まったものであり、新聞を教材にして家でも親子が、学校でも教師と生徒が行う学習活動である。日本新聞協会（1996）によれば、1995年度現在で全世界で32カ国の国々で、その実践活動が行われている。しかし、日本におけるNIEの実践の歴史は浅い。とりわけ、日本の英語教育においては、NIEを通しての本格的な教育が始まって数年と経過していない現実がある。

ここでNIE活動の教育的意義について考えてみたい。日本新聞協会が発行している「NIEキット」（1996）の中で、NIE活動の主な教育的意義について以下のような点が記述されている。

- (1) 学習意欲が全般に高まる
- (2) 政治、経済を含む社会への参加意義を植えつける
- (3) 情報の分析・活用能力がつく
- (4) 豊かな思考力を培い、主体性の確立を促す

この教育的意義はNIE活動の一般的な意義であり、各教科に共通するものであると考える。しかし、この論文の中では、その教育的意義並びに目的は、特に英語教育におけるNIE活動の意義・目的について論じる必要がある。そこで、その点について論述していきたい。

田嶋 (1996) は、英字新聞の外国語学習への導入による目的として、以下のような項目をあげている。

- (1) 日常の英字新聞から問題を取り上げ、NIE英語学習の目的や意識を高め、学習意欲を増す
- (2) 問題発見能力、自己表現能力、討論できる能力を培う
- (3) 日本の国際化と国際理解教育に貢献する
- (4) 情報化と科学技術の発達に伴う英語力の養成を可能にする
- (5) 社会にある様々な問題を考える力を育成する

この中で私が焦点を当てたのは、(1) (2) そして (5) の視点である。これらの視点を調査項目に挙げた理由は以下の通りである。

一つの理由として、田嶋 (1996) が記述している中で、新聞導入により外国語学習の意欲を高めることと英語表現能力を養うことが外国語学習の目的に含まれている。もう一つの理由は、過去の研究の中では具体的に新聞導入による効果を明示した研究が見あたらなかったことである。

上記の視点に関して更に記述すると、(1) に関しては、教科書の題材との比較において、その内容に着目すべきである。具体的に比較すると、教科書も新聞同様、社会問題・スポーツ・文化問題・等多岐にわたる。ただ、異なる点がいくつかあると考える。例えば、(A) 語彙の問題 (B) 学習者への接近度 (C) 内容の種類などが挙げられる。

(A) 「語彙の問題」に関しては、学習者には新聞の語彙が難しいという意識がある。これはどの学年に活用するかにもよるが、英字新聞の語彙は確かに難しい。教科書に出てこない語彙がかなり登場する。しかも、新聞独自の語彙の使用があるので、教室での新聞の使用には教師の側の指導が十分必要である。この問題については、教師の側の適切な指導も必要となってくる。とはいえ、不安ばかりを抱いていたのでは、いつまで経っても学習者にとって格好の教材である新聞の導入には踏み切れないので、学習者の英語力を考慮しながら、多少の語彙不足は学習者の努力、ないし教師の工夫で克服していく気持ちが必要があると考えられる。

(B) 「学習者への接近度」に関しては、学習内容が学習者にとってどのくらいの距離があるか、話題の身近さについての問題である。教科書の場合は、検定制度という関門があるが故、内容的に新聞に比べて多少古い題材を利用していることになる。とはいっても、最近ではできるだけ身近な話題を精選して、内容に盛り込む傾向はある。例えば、野茂投手の活躍やジュラシック・パーク等に見られるDNAを用いたクローン化の研究などが、最近の話題として取り上げられつつある。

この話題性に関しては、一概に教科書が話題性に富んでいないと言っているのではなく、一般的に新聞の方がより身近な話題、つまり時間的にも、関心度においても学習者により接近した話題を提供しやすいということである。その理由は、昨日の話題を即、英字新聞を通して学習でき、学習者の興味深い題材を提供できるからである (cf. Blatchford 1986)。

(C) 「内容の種類」に関しては、教科書自体が限定されたものであるのに対して、新聞は日々内容に変化があり、(B) の「学習者への接近度」に関連があるが、話題性に富み、学習者の関心を引きやすい記事も多いので、学習者の興味・関心を考慮に入れた話題の提示、あるいは学習者の話題の選択等の方法で提示してみることが可能である。

以上の点を踏まえながら、学習者に積極的に英字新聞を読ませていく試みが大切となってくると思われる。

もう一つの観点である (2) と (5) の視点について記述すると、日本の学習者にとって欠けている点の一つが、この「社会の問題に関心を持ち、自分の意見を持ち、それを自分の言葉で述べる」ということであるといえる。これは英語教育だけの問題ではなく、教育全般の問題である

と考える。日本語で自分の考えを十分に述べるできない学習者が多い中、ましてや英語で述べることはかなり難しいであろう。英語教育の中でも、オーラル・コミュニケーションCに見られるように、自分の意見を英語で述べ、ディベート（討論）する能力の育成を目指しているが、現時点ではハードルはやや高いような気がする。かなり多くの学校では、学習者の自己表現能力（母国語）や英語力の問題で英語でディベートをできる状況に達していないのが現実ではなかろうか。英語でのディベートをする前に、必要な話題の知識とそれについての自分の意見をもてるような実践をする必要がある。

そのために、本研究では次章で述べるように、まず内容把握を十分に行い、社会問題を深く認識させることを試みた。その上で、学習者の実状を考慮しながら、日本語あるいは英語を通して自分の考え・意見を書いたり、述べたりすることによって、記事内容の問題を発見する力や自己表現力を培う方法を探った。

### 3、研究の目的及び実践

#### 3、1 目的

以下の項目が今回の研究の目的である。

- (1) 学習者はどんな話題（記事）に興味・関心を抱いているか
  - (2) 英字新聞導入によって、学習者はどんな影響を受けているか
  - (3) 英字新聞に対して学習者はどう感じているか
- 特に、目的の中心は（2）、（3）に置かれている。

#### 3、2 実践方法及び内容

上記の目的に基づいて、一学期リーディングのクラスで英字新聞導入を試みた。

学習者：3年生 17名

提示題材：環境・人権・平和・社会等の様々な分野から以下の新聞記事を提示

喫煙マナー、たまごっち、地球温暖化、ペルー人質事件、4コママンガ、  
左利きの人にとっての社会、アグネスちゃんの弁当

実施方法：4段階尺度によるアンケート（Appendix 1）

指導実践過程例としては、以下の通りである（cf. Appendix 2）。

- (1) 写真を活用しながら学習者の関心を引き、興味を持たせる。
- (2) その写真等から言える内容について学習者に発言させる。その際教師からの簡単な意見も述べる。
- (3) 写真で記事内容に関心を持たせたところで、英字の記事を読ませる。通常は英字新聞の記事が学習者には少し難しいこともあって、前もって予習させる手段を講じた。（通常は質問項目を用意して、その質問を基に記事を読む方法をとった）
- (4) 内容を十分に理解した上で、内容に関わる経験談・コメントを述べる。
- (5) 記事を読んだ後に、学習者の感想を述べさせる。

### 4、結果と考察

第3章で記述したように、3つの研究目的に基づいてこの研究を行った。その目的に焦点を当てながら、授業及び一学期の最後にアンケート（Appendix 1）をとった。そのデータに基づいて、結果・考察をしていきたい。

#### 4、1 提示題材への関心度

まず、学習者の記事に対する意識について記述すると、前述した調査の結果、学習者の新聞記事に対する意識は以下の通りであった。

提示した教材の中で、「学習者がどんな記事に興味があったか」に関しては、以下のような結果になった。

特に10代の学習者にとって身近な話題である、「たまごっち」「喫煙マナー」については格段の興味を引いていることが窺える(Appendix 3)。

一方、「アグネスちゃんの弁当」(彼女の子育てのなかで、弁当に関わる日本文化に慣れる苦労などを書いた記事)や4コママンガはあまり興味を引かなかった。英文の難しさもあり、学習者を引きつけるに至らなかったようだ。

#### 4、2 学習者への影響

上記の質問項目の中で、「学習者は英字新聞を読むことでどのような影響を受けたか」に関しては、以下の点で考察していきたい。

- 1) 英語学習への興味・関心が高まったかどうか
- 2) 英語の力がついたと思うか
- 3) 周囲の出来事に対して関心が高まったかどうか
- 4) より新聞を読むようになったかどうか
- 5) 写真・絵の導入は学習意欲に繋がったかどうか

英語学習への興味・関心に関しては、半数以上の学習者が高まったと答えている。英語が嫌いな学習者の割合(8割を越える)を考えれば、一応外国語教育への新聞導入は成功したといえる。

英語力向上に関しては、5割を越える学習者は英文を読む力がついたと思っている。一方、単語力に関しては、約三分の一の学習者しかついていないようである。これは学習者の積極的な学習の程度等とも関連があると言える。学習者自身が時には4辞書を引きながら、新聞記事を読む姿勢を持続するなら、自ずと語彙力は伴うものと信じる。しかし、学習者自身が英語が嫌い・英語が難しいという意識がある中、予習の量は少なく、真剣味に欠けていたのが事実である。それを考えれば、語彙力がついていないと感じるのも当然の結果であろう。

「周囲の出来事に関心を持つようになったか」に関しては、「関心を持つようになった」と答えた生徒は過半数を超えなかった。社会的な記事などを扱っているが故、周囲の出来事により関心を持ってよさそうなのであるが、期待した結果は得られなかった。しかし、逆に言えば、過半数に近い数の生徒が関心を持っていると考えれば、新聞導入の価値があったとも考えられる。

また、写真・絵の導入は調査結果を見る限り、学習者に大きな影響を与えている。具体的には、学習者の約8割の者が写真・絵の導入で英語学習をする気になると答えている。私の以前発表した文化学習を通しての研究調査結果(1996)でも、学習者に視覚的に訴える方法を取った場合は、学習意欲の高まる結果が出ている。今回も同様の結果が出ており、多少学習者にとって難解な内容であっても、導入等をうまく行なったり、Visual Aidsを使用したりすることによって、学習者を学習内容に引きつけ、授業に前向きに取り組ませていくことが可能になるといえる。

#### 4、3 英字新聞に対する意識

次に、「学習者は英字新聞に関してどのように感じているか」の項目に関して、以下の点について検討してみた。

- 1) 社会勉強に役立つかどうか
- 2) 新聞記事の英語を難しいと思っているかどうか
- 3) 英字新聞の授業は楽しかったかどうか

「英字新聞が社会勉強に役立つかどうか」という項目について、学習者の9割近い者が役立つと答えている。つまり、新聞を通して現実の社会についての勉強になるという考えが学習者の中にあることが窺える。この点に関しては、英語教育ばかりでなく、他の教科とも共通する部分であり、新聞の有効性を学習者が認識していることが分かる。

新聞の英語については、予想したとおり、学習者は難しいと感じている。学習者の8割を超える者が難しいと答えており、その中で全体の四分の一の生徒がとても難しいと答えている。この事実は学習者の英語レベルとも密接に関連することであり、一概に英字新聞は難しいという話にはならないと思う。しかし、一般的に言って、新聞の英語は教科書で使う英語とは少し語彙が異なり、英語の語彙力がある生徒でも新聞を読むのに必要な語彙力をつける努力をする必要がある。私の生徒の場合、高校生としての十分な英語力がついておらず、しかも、英語が嫌いな生徒が大半であり、まず英語と言えれば拒否反応がくる生徒が多い実状がある。その点を考えれば、新聞英語を難しいと考えるのは当然といえるかもしれない。

一方、学習者の四分之三を超える者が、英字新聞を導入した授業は楽しいと答えている。新聞の語彙が難しいという意識があるにも関わらず、学習者の4人に3人が楽しい授業であったと答えた理由は、導入した記事内容や提示方法と密接に関連があると考えられる。学習者にとっての興味深い話題、学習者の立場に立った記事の精選・導入を行ったことが功を奏したといえよう。

#### 5、まとめ

英字新聞導入の授業による今回の調査・研究で、英字新聞の有効性について、学習者の情意面を通して確認できた主要なことは以下の点である。

- (1) 社会勉強に役に立つ
- (2) 英字新聞導入の授業は楽しい
- (3) 英語学習への興味・関心が高まり、英語力向上に役立つ

その反面、克服すべき課題として、あげられることは、学習者が英字新聞の英語は難しいという意識を持っていることや、新聞の導入にとって新聞閲読が増加した、あるいは周囲の出来事により関心を持つようになった、というような波及効果が期待されたにも関わらず、よい結果は出なかったことである。その点については、学習者の英語力や英字新聞の実施期間や実施回数なども関連があると考えられる。とはいえ、上記のような学習者の意識を大切にしながら、教師自身が題材提示の創意工夫をし、記事の内容について学習者にもっと深く考えさせ、周囲の出来事に対してより関心を持たせ、最終的に学習者の英語力をあげることを目指して実践していくならば、今後も英語授業への新聞導入の価値は十分あるといえる。

今後の課題として、まず、題材内容の吟味を綿密に調査する必要があることが挙げられる。次に、英字新聞導入を長期的に実践することによって、学習者に起こる変容、特に態度・行動面の変容について調査・研究する必要がある。さらに、NIE教育の目標にも掲げている、学習者自身が英字新聞の記事内容を十分に把握した上で、自分の考えを持ち、自分の意見を述べるができるようになるための指導(統合的な英語指導)を推進していく必要があると考えている。

註1 日本語の新聞閲読が量的に増えたと答えた学習者は、ほんの僅かであった。この原因は明らかに実践期間や実践回数に大きく関連があると言える。回数の少なさや期間の短さにより学習者に大きな影響を与えるまでに至らなかったと考えられる。日本新聞協会の報告(1997)では、NIE実践活動を実施した学校では学習者が新聞閲読に積極的になったと述べている。英字新聞による指導との比較はできないとはいえ、この点を考えれば、もっと長期の内容を深めた、より継続的な実践が必要であるようだ。また、継続的な英字新聞閲読の方向性を模索する必要もあると感じている。

## 参考文献

- 岡 秀夫 1997. 「大学入試「英語をはずせ」に教師はどう応えるか」【英語教育事典大学入試特集号】8-9.  
 田嶋英治 1996. 「英語教育とNIE ―生徒と英語力レベルに応じたNIEの導入と方法―」 第一回NIE全国大会分科会I (英語)発表資料  
 出丸久之 1996. 「新聞記事を利用して自己表現力を高める試み」【NIE―実践報告書】 日本新聞協会NIE委員会編 197-201.  
 日本新聞協会NIE委員会編 1996. 【NIEキット】  
 中国新聞 1997. 日本新聞協会NIE委員会による効果測定調査結果(7月17日付)  
 上西幸治 1996. 「比較文化学習を通して学習者の変容に関する研究」【中国地区英語教育学会紀要】27, 293-302  
 Blatchford, C. H. 1986. Newspapers: vehicles for teaching ESOL with a cultural focus. *Culture Bound* edited by Valdes, J. M. 130-136.  
 Forrest, E. 1997. Reality Bites: Structuring A Fourth Year Reading Class. *The Language Teacher*, 21, 6, 19-23 & 71.  
 Grundy, P. 1993. *Newspapers*. Oxford University Press.  
 Tapia, A. R. R. 1993. Using the Newspaper with Beginners. *English Teaching Forum*, 31, 1, 45.

## Appendix 1

## 英語アンケート

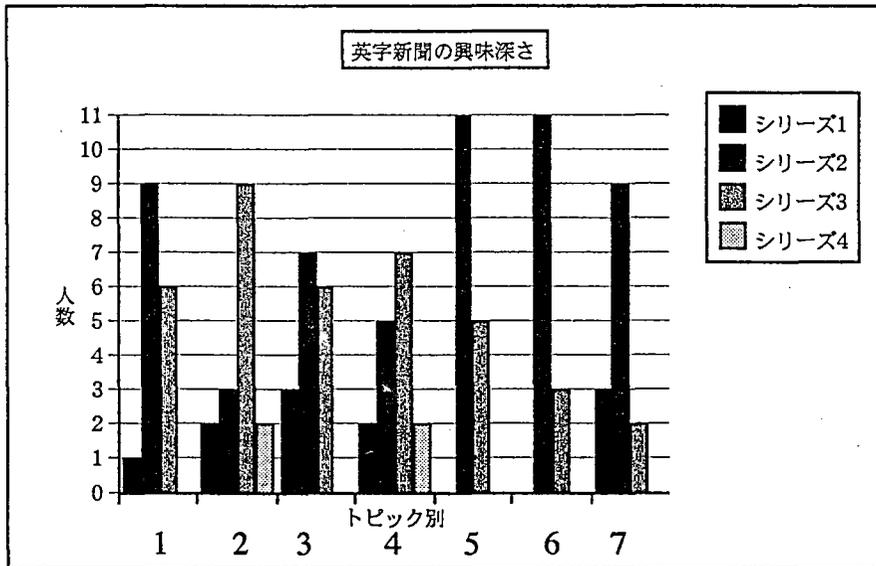
7月 男・女

- 次の調査は英語学習をよりよいものにするためのものです。率直に自分の思う箇所に○をつけてください。4がとてもそう思う(そうだ)、3がそう思う(そうだ)、2があまりそう思わない(そうでない)、1が全くそう思わない(全くそうでない)として記入してください。
- 1、英字新聞による英語の授業は教科書に比べて楽しいものでしたか。
  - 2、英語への興味・関心が前よりも出てきましたか。
  - 3、英語力に関してお聞きします。
    - (1) 英語を読む力がついたと思いますか。
    - (2) 単語の力がついたと思いますか。
  - 4、新聞による学習で日本語の新聞を前よりもよく読むようになりましたか。
  - 5、周囲の出来事や日本のことに前よりも関心を持つようになりましたか。
  - 6、5の質問で関心を持つようになった人に聞きます。どんな話題に関心をより持つようになりましたか。
  - 7、今まで学習した教材の中で、内容的にどれが興味を引きましたか。( )の中に興味を引いたものに○、引かなかったもの×をつけてください。
 

( ) ベルーの人質事件	( ) 地球温暖化	( ) たまごっち
( ) アグネスちゃんの弁当	( ) 喫煙のマナー	
( ) 左利きの人にとっての社会	( ) 4コママンガ	
  - 8、写真や絵がある記事(題材)は、英語の学習のやる気(意欲)が出ますか。
  - 9、英字新聞の記事は日本の新聞などの予備知識があると読み易いと思いますか。
  - 10、英字新聞を読むことで、周囲の出来事について前よりも真剣に考えるようになったと思いますか。

- 1 1、授業の中で、社会の出来事について考え、意見を述べる機会があることはよいことだと思いますか。
- 1 2、英語（学習）は好きですか。
- 1 3、英字新聞（文章・語彙）は難しいと思いますか。
- 1 4、英字新聞を授業で読むことは、英語学習に限らず、社会の勉強に役に立つことだと思いますか。
- 1 5、教科書と違って、英字新聞を読んでこれはよかったと思うこと、影響を受けたと思うこと、または学習の感想などを自由に書いてください。

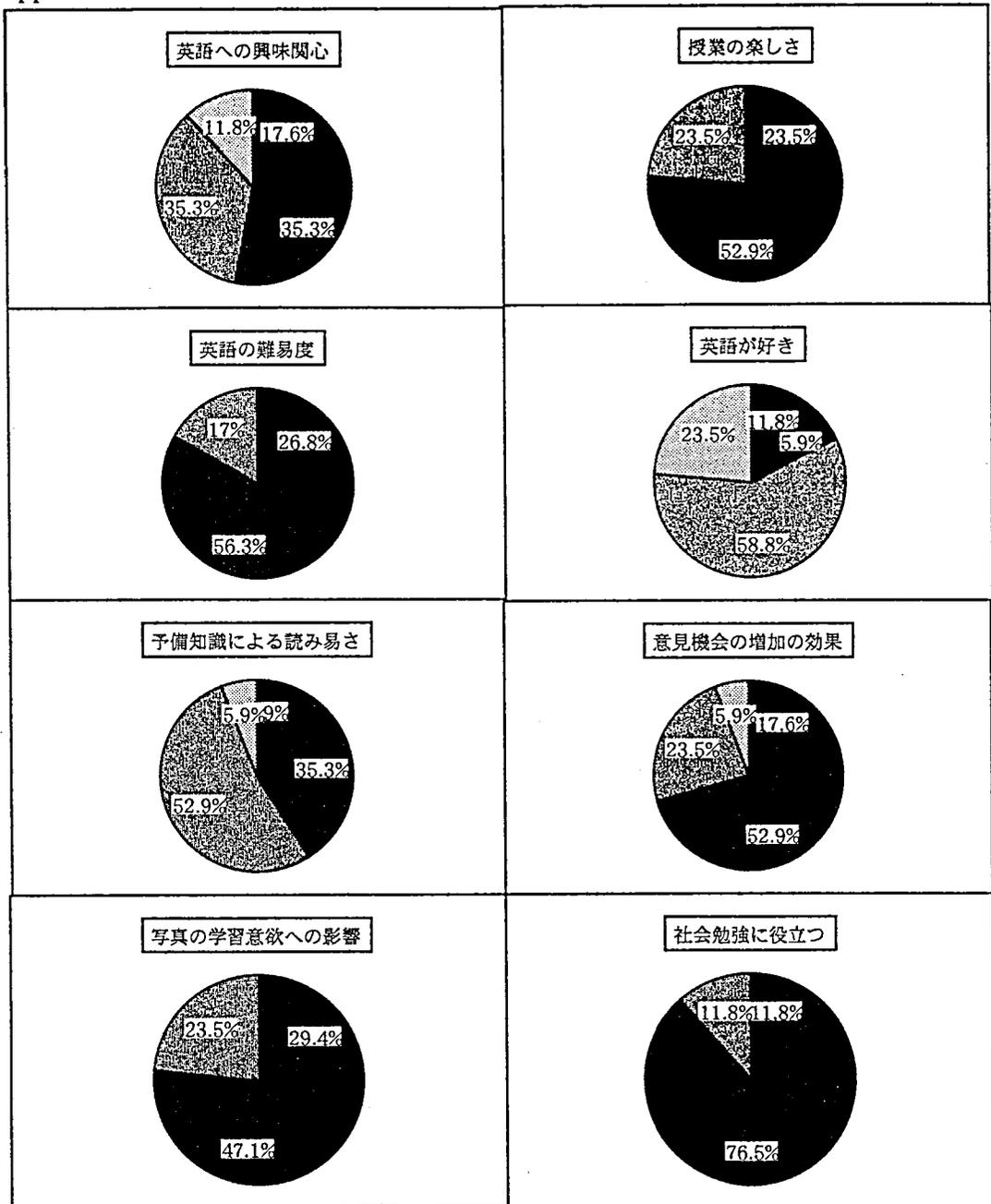
### Appendix 3



- シリーズ1：とてもそうである（思う）  
 シリーズ2：そうである（思う）  
 シリーズ3：あまりそうでない（思わない）  
 シリーズ4：全くそうでない（思わない）

No.	Interesting Topics	1	2	3	4
1	ベルーの人質事件	1	9	6	0
2	アグネスちゃんの弁当	2	3	9	2
3	左利きの人にとっての社会	3	7	6	0
4	4コママンガ	2	5	7	2
5	地球温暖化	0	11	5	0
6	喫煙マナー	0	11	3	0
7	たまごっち	3	9	2	0
	計	11	55	38	4

Appendix 2



- とてもそうである (思う)
- そうである (思う)
- あまりそうでない (思わない)
- 全くそうでない (思わない)